

平成24年度

平成24年度文部科学省指定「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究」
和歌山県教育委員会「学力向上推進校事業」
九度山町教育委員会指定「小中連携による学力向上推進事業」

九度山町立九度山中学校 研究発表会



1. **研究主題** 確かな学力を育むための指導法の工夫
～学ぶ楽しさを感じ、主体的に学習する、生き生きとした学校づくり～
2. **研究テーマ** 『ことばの力』の育成から学力向上を図る
～各教科等の特質に応じた言語活動の充実を通して～

3. 研究の概要

平成23年度は「県学力向上推進校事業」の指定を受け、全教科・領域等で、「ことばの力」の育成につながる授業内容の工夫と改善、学習指導案（略案）の統一、校内授業研究、公開授業と研究協議、ワークシートの記入等の検証に取り組んだ。

本年度は「『確かな学力の育成に係る実践的調査研究』における新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究」の指定を受け、昨年度の「県学力向上推進校事業」の取組を基に「『ことばの力』授業力向上」・「基礎学力の定着」といった二部会を設け、研究をさらに深めようと考えた。「『ことばの力』授業力向上」部会では「ことばの力」育成に向けての授業研究と実践を深めることで、各教科の目標の実現と学力の定着に努めた。また、「基礎学力の定着」部会では、家庭との連携を進めながら基本的な生活習慣・学習習慣の確立を図るとともに、補充学習については組織的・継続的に行うことで基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指し、自主的・主体的に学習に取り組む生徒の育成に取り組んできた。

4. 研究内容

【1】「ことばの力」授業力向上

（1）「ことばの力」育成に向けての授業実践

- ◇思考力・判断力・表現力を高めるための言語活動内容の手立てと工夫。（発表・情報整理・記録・論述・考察・推察・解説・意見交換・・・等での言語能力を高める指導）
- ◇根拠を明確にした表現活動に向けて、視点・観点を押さえた授業展開・ワークシートの作成に取り組む。
- ◇言語活動について重点的に指導する場面を設定する。

（2）校内授業研究と研究協議

- ◇教え合い、学び合う学習集団を育てる授業スタイルの実践と改善。（授業展開や授業形態の工夫と練り上げ）
- ◇学習指導案（略案）を統一する。
- ◇「授業観察シート」とKJ法の活用により研究協議の質的向上を図る。
- ◇ワークシート、ノート、振り返りカードによる「ことばの力」の検証。

【2】基礎学力の定着

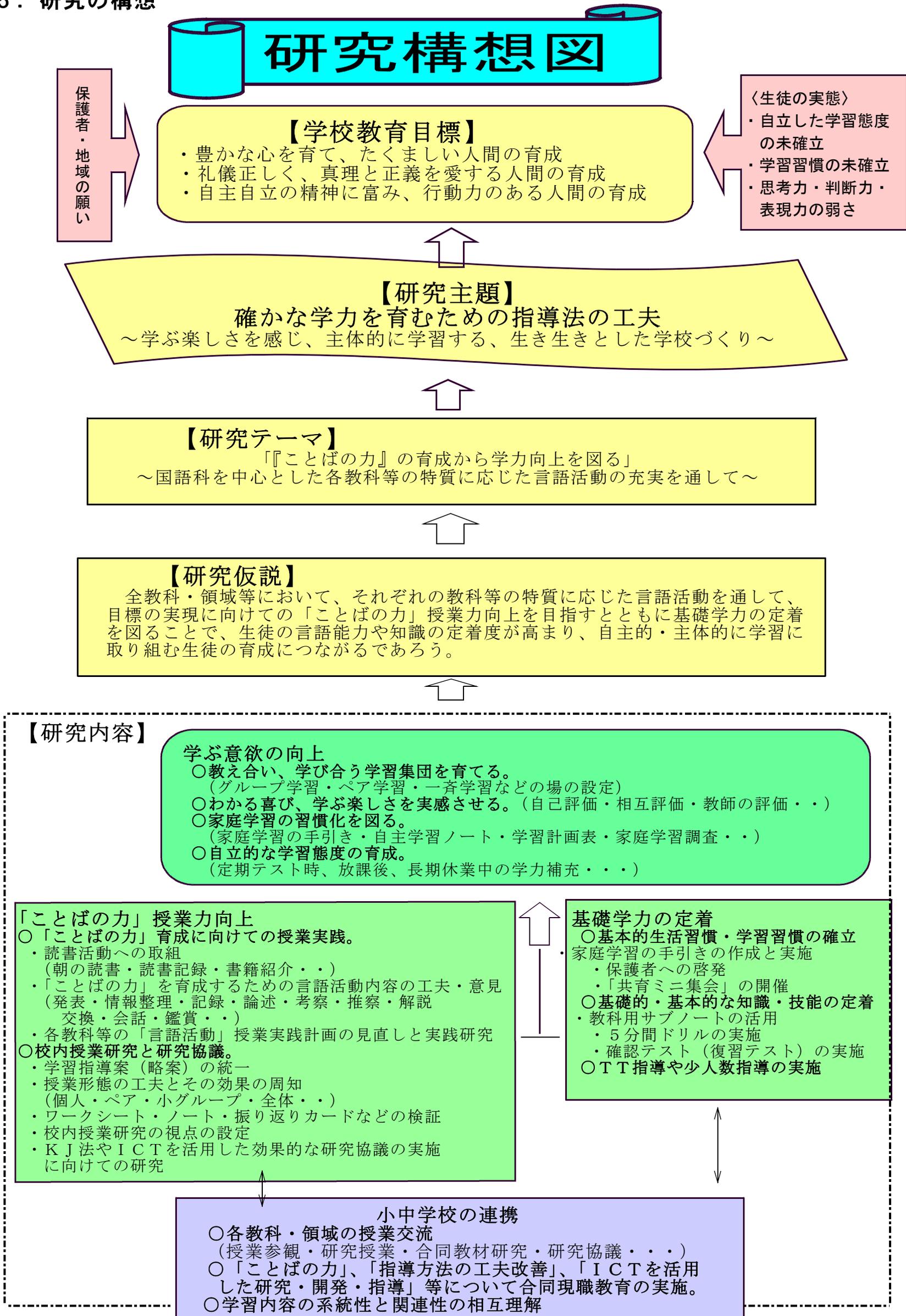
（1）基本的な生活習慣・学習習慣の確立

- ◇「生活・学習アンケート」の実施と分析、家庭への情報提供・協力要請。
- ◇「家庭学習の手引き」の作成と指導。
- ◇効果的な“自主勉ノート”作りの指導。

（2）基礎的・基本的な知識・技能の定着

- ◇学習内容の系統性や関連内容をおさえた学習活動と弾力的な指導。
- ◇教科用サブノートの活用。
- ◇学習支援ボランティアによる「放課後自主勉教室」（補充学習）の実施。
- ◇5分間ドリル・確認テスト（復習テスト）の実施。

5. 研究の構想



6. 主な取組

【1】校内授業実践に向けて

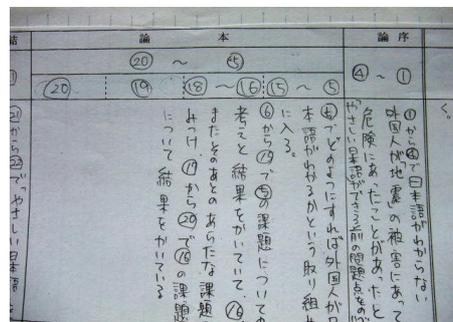
(1)「ことばの力」を育成するための活動内容

発表（技能を含む）
情報の整理
記録・レポート
論 述
考察・推察
解 説
意見交流
会 話
鑑 賞

総合的な学習でのポスターセッション



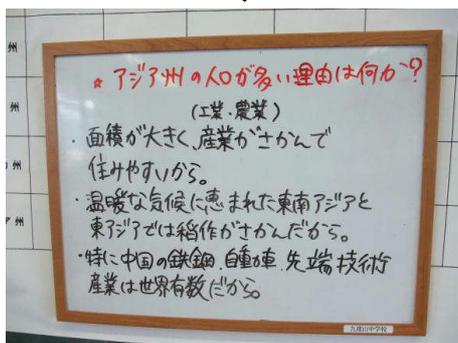
根拠や理由をあげて、内容段落に分ける。



見方や考え方、感じたこと
とを交流する場面



資料から考察したことを
発表する



空想画の鑑賞



(2) 自主学習力を高める授業への取組

◇授業展開スタイルの工夫

説明を聞く



考える

理解する

広げる



理解を深める



振り返る

まとめる

①教師からの課題提示。(一斉学習)

- ・何について考えるのかを明確にする。
- ・判断、思考、表現の視点や観点をおさえる。
- ・ワークシートの活用と説明。

②個人で考える。(個人学習)

- ・一人一人に自分の考えをきちんと持たせる。

③意見交換する。(グループ学習・ペア学習)

(相互説明・教え合い・学び合い・発表など)

- ・グループ、ペアで何について意見交換するのかを明確に。
- ・一人一人の考えの違いに気付かせる。
- ・一人一人の考えを出し合い、練り合わせる。

④個人で見直す・再考する。(個人学習)

⑤全体交流(一斉学習)

- ・全体で何をもとに意見を出し合うのかを明確に。
- ・グループで話し合ったことを、またはグループでまとめた意見を、根拠をもとに全体で共有する。

⑥個人の振り返り・まとめ(個人学習)

- ・分かったこと、学んだこと、考えの変化、理解の深まりなどを確認させたり、整理させる。

◇学習理解を支援するワークシート

ワークシートの目的

- ①学習過程や解き方がわかる。
- ②自分の考えをまとめたり、文章化したりする。
- ③まちがいに気づいたり、考え方が正しいか確認したりする。

ワークシート作成のポイント

- ①授業全体の流れや構成が見渡せるように整理するなどの工夫をする。
- ②視点や観点をきちんとおさえた項目を設ける。
(書く材料やポイント、言葉は事前に授業でおさえて手立てとする。)
- ③自分の考えや思いを文章で表現する項目を設ける。
(それ以前の項目を参考にしたり、学習したことを反映させれば書けるなどの事前の手立てをしておく。)
(事前に表現するルールやモデルを示す。)

(3) 学習効果を高める学習形態

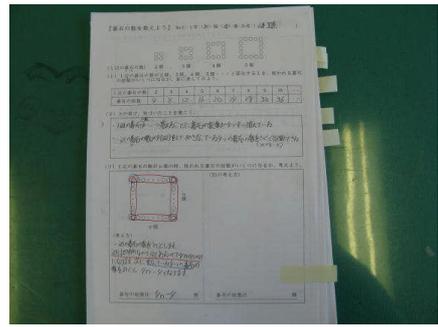
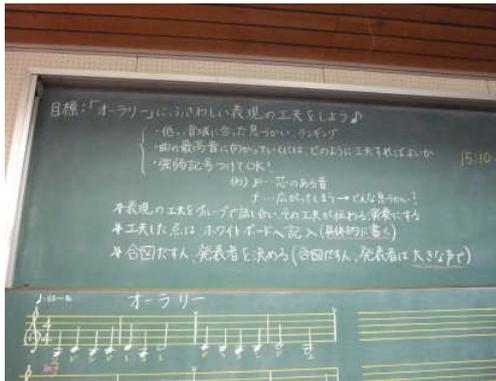
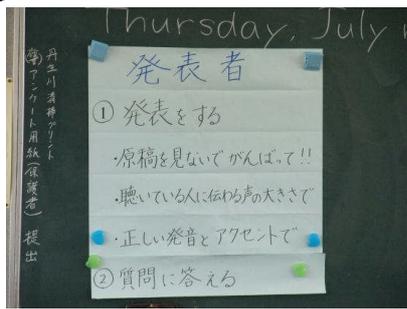
☆子どもの能力・適性、興味・関心などの実態に応じて行う。

☆各教科で課題解決に向かうために必要な学習形態を取り入れる。

☆授業展開の中で多用な学習形態を活用していくことが大切。

<p>個人学習</p>	<p>◇個別の課題や個人のペースで考えたり活動したりすることを重視した学習形態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書いたり読んだりする活動に適している。 ・自分のペースで活動できる。 ・子ども一人一人の能力・適性、興味・関心、理解の差などに対応できる。 <p>※教師一人では支援しきれない場合がある。</p>
<p>ペア学習</p>	<p>◇考えを交流したり、互いの学習状況を確認したりできる学習形態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短時間で活動準備ができ、活動に入ることができる。 ・繰り返しの学習が多くできる。 ・隣の席同士など、気軽に意見を言い合いながらできる。 ・相手の交代がスムーズにできて、学習の広がりや深まりがさらに期待できる。 <p>※内容が固定的になる心配がある。</p>
<p>グループ学習</p>	<p>◇子どもをいくつかの小集団に分けて指導する学習形態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の意見を聞いて、自分の考えを広げることができる。 ・自分の考えとの共通点や相違点に気付くことができる。 ・課題に対しての練り合いが活発になる。 <p>※グループの一部の子どもだけで、学習が進んでしまう心配がある。</p>
<p>全体学習</p>	<p>◇話し合い活動など、集団で思考する場面で活用できる学習形態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の導入部分で共通の課題を把握したり、学習の終末部分で伝え合い、学び合う場面でも効果的に活用できる。 ・一斉に指示を出したり、確認したりできる。 ・全員で意見や考え方を共有できる。 <p>※教師主導になりがちで子ども主体の学習になりにくい。</p>

視点や観点をおさえる



ワークシートでおさえる。

グループで取り組むときの視点や観点を示したり、発表や聞く側の視点を示したりする。

グループ学習



《音楽：演奏の工夫》



《体育：ダンスの創作》



《国語：文学作品の批評》



《美術：作品の鑑賞》



《理科：音の大小と高低》

(4) グループ学習について

①なぜグループ学習をするのか。

- ・個人学習の共同化（必要であれば、友達に質問したり相談したりできるように。）
- ・友達同士（課題解決できた生徒と未解決な生徒）が学び合える（教え合う、説明し合う場として、また主体的な学習に参加することを促進する場として。）
- ・意見交流することで、共通点や相違点を見つけたり、いろんな見方や考え方に触れたりする。

②どんな場面(学習活動)にグループ学習を入れるのか。

- ・個人学習では課題解決に向かえない場面。
- ・多くの意見や考え方が出るという期待が持てる場面。

③グループ学習での課題の提示について。

- ・話し合いの論点を立てる。（その場合、何がわかっていて何がわかっていないかを整理して焦点をしぼる。）
- ・“なんでもいいから” “いろんな” はダメ。視点（手がかりになるもの）をしぼって課題を示す。

例：音楽鑑賞をする場面であれば、“楽器” “リズム” “ハーモニー” などの視点から鑑賞を話し合わせる。

- ・留意する点としては、生徒の学年（グレード）ではなく、実態（ステージ）に応じた課題提示を行う。

④グループ学習への教師の関わり方。

- ・グループ学習に参加できていない生徒に支援する。
- ・話し合いが成立しにくいグループを支援する。
- ・「今何してる？」 「困ってることは何？」 と言った問いかけをする。
- ・わかっている子が一人で進めているときは、みんなの意見を聞かせる。

⑤グループ学習をやめるタイミング。

- ・設定した時間を優先する。
- ・全体的に課題解決の方向からはずれてしまったとき。（まず、一斉学習に切り替えて、指示や助言をして再度グループ学習にもどす。）

⑥発表の場

- ・発表シートで発表させる場合。時間をかけ過ぎない。
- ・同じ考え方のグループが複数あれば、発表は1グループにしぼる。

⑦その他

- ・課題に関する解答を、ノートやワークシートなどに文章として起こさせる。（わかったこと・感じたことを、素直に・自分の言葉で表現する。）

【生徒の学習ステップ】

- ステップ1・・・答えを出せる。
- ステップ2・・・考えたことを言葉で表現できる。
- ステップ3・・・友達が理解できるように説明できる。
- ステップ4・・・友達が必要としたこと（だけ）を支援できる。

(5) グループ学習の進め方

【教え合いをする場合】

- ◇ 解決できていない生徒は、どこまで自分が理解できているかを知る。
- ◇ 解決できた生徒は、解き方や考え方を説明できるようにする。
- ◇ 解決できていない生徒に教えるときは解き方・考え方・ヒントなどを与えるようにする。

【意見をまとめる場合】

- ① 順番に意見を述べていく。
- ② 論点をしぼる。
(多かつた意見・興味深い意見などにしぼる。)
- ③ 「②」でしぼった内容について意見を出し合う。
- ④ 似た内容はひとまとまりにして記録する。

【いろんな意見や考え方に触れる場合】

- ① まず自分の考え方を必ず持つ。
- ② 順番に考えを述べ合う。
- ③ コメントし合う。
- ④ みんなの意見をすべて記録するのではなく、似た意見は分類化してまとめて記録する。

※グループ内での意見の出し合いにとどまる
ことがあるので、その場合はきちんと記録
する。

生徒がグループ学習に取り組むうえでの互いのルールを示した。

グループ学習のルール

- ◇ 自分が何をわかっていて、何をわかっていないのかを探ろう。
- ◇ 「こんな質問いい?」「何でそうなるの?」「わからなから問おう?」「簡単なのに」と相手を傷つける言葉を言わないようにしましょう。
- ◇ 答えを教えるのではなく、考え方を教えよう。
- ◇ 友達を説明するときちゃんと聞こう。
- ◇ 「さうなんだ」「ありがとう」と飾らず、素直に伝えよう。

学習ステップ	内容
ステップ1	わかれ。かえを。答とす。えをま。出せ。る。でき。る。
ステップ2	考えを。かえを。答とす。えをま。出せ。る。でき。る。
ステップ3	考えを。かえを。答とす。えをま。出せ。る。でき。る。
ステップ4	考えを。かえを。答とす。えをま。出せ。る。でき。る。

教室に掲示!



(6) 学習指導略案の統一

(例) 社会科 校内統一学習指導略案

指導者 ○○○○

1. 日時 平成 年 月 日 () 第 限

2. 場所 九度山中学校 □年 組教室

3. 学年・組 第□学年 組 (男子 名, 女子 名)

4. 単元名 公民的分野 「対立と合意・効率と公正」

5. 指導計画 第1次「社会集団」における対立と合意・・・(1時間)
 第2次「きまりと取り決めの意義」・・・(1時間)
 第3次「効率と公正とは何か」・・・(1時間)
 第4次「効率と公正の考え方から『回転寿司店』の経営を吟味しよう」(1時間) 本時

6. 本時の目標 ・社会生活における問題解決について「効率」と「公正」の視点から望ましい決定の仕方を具体的事例を通し多面的・多角的に考察させる。

7. 「ことばの力」の活用 ・自分の意見を、根拠を明らかにして課題を考察したり、まとめたりできる。

8. 本時の展開

指示・主発問などを中心に。

国立教育政策研究所:「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」・言語活動の充実に関する指導事例集・各教科の「指導書」を活用してください。

授業内容は簡単に1行程度で。

学習活動	指導・留意事項	評価・支援の手立て	言語活動の重点
本時のねらいに関する材料やポイント、言葉などは事前におさえておく。			
<p>【個人学習】</p> <p>①効率と公正の概念を整理する。</p> <p>【グループ学習】</p> <p>②「回転寿司店」の経営を例に、次に挙げたものを効率的に使うにはどうしているか、話し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> <p>時間 金 情報 場所</p> </div> <p>《予想される意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> 待ち順ではなく、空き席数によって客を入れている。(効率) 客数が少ない時間帯は、あまり皿が回っていない。(効率) 満席の場合は、空席待ち記録表に記入する。(公正) <p>【全体学習】</p> <p>③グループで作成した付箋をもとに、合理的な経営について全体で交流する。</p> <p>【まとめ】</p> <p>④きまりの必要性について理解する。</p>	<p>①「効率」と「公正」の付箋での配置を考える。</p> <p>②店の合理的な経営と客のニーズから付箋に書いた意見を分類する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>グループ活動は、協議によって課題解決を図りたい場面、深めたい場面、多面的・多角的な考えを出させたい場面に設定する。</p> </div> <p>③現代社会を捉える見方や考え方の基礎としての「効率」と「公正」、「対立」と「合意」などを理解するために役立つ情報を適切に選択し、考察させる</p> <p>④合理的な経営のための一定の決まりによって「効率」と「公正」が実現できることを理解させる。</p>	<p>【評価】 思考・判断 「効率」と「公正」の視点から合理的な経営のためのノウハウをあげるができる。</p> <p>【支援】 「効率化」をはかるための具体的な手段や客へのサービスを例として提示して考えさせる。</p> <p style="text-align: center;">評価(規準・観点・方法) 支援の手立て(努力を要する生徒への手立て)</p> <p>※グループ学習の場合、目標・指導・評価はできるだけ「思考・判断」の観点をもとに</p>	<p>⑤</p>

【授業における言語活動の重点について】

- ①日常の体験や自らの感性により、感じ取ったことを表現する。(言葉や歌・絵・身体などを用いて表現する。)
- ②事実を正確に理解し、伝達する。(発表・記述・ノート・記録・報告などによる。)
- ③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。(知識を活用して、自分の生活に生かす。)
- ④情報を分析し、論述する。
- ⑤課題を考察したり、まとめたりする。
- ⑥お互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団を発展させる。

(7) 学習指導案の統一

〇〇科学習指導案

指導者 ○○ ○○

1. 日時 平成25年 2月13日 (水) 第4限
2. 場所 九度山中学校 年組 教室
3. 学年 第 学年 組 (男子 名、女子 名)
4. 単元名 「 」
5. 指導にあたって

(1)

【生徒観】 ※教科に関する能力・既習事項などに触れる。
※系統性を盛り込んだ生徒観

※系統性・生徒観のあとにフローチャートで示す。(題材名・教材名・文章化、いずれもOK。)



【教材観】 ※教科的な内容を分析的に入れる。

【指導観】 ※教科に関する具体的な内容を入れる。

指導要領との関連⇒

(2) 研究テーマとの関連

- ① 【言語活動に関わって】
- ② 【中心となる発問や指示、ワークシート、シンキングスキルに関すること】
- ③ 【学習形態に関すること】

6. 単元の目標

7. 単元の評価規準

{ }

8. 指導と評価の計画 (全 時間)

	学習活動	評価の観点	評価規準
第 時			
第 時 (本時)			
第 時			

※学習活動の内容については、教師側の活動ではなくて、生徒側に立った内容を書く。
【整理する・考える・調べる・分析する・解釈する・意見を述べ合う・まとめる】
※全時間を通して、[1、導入で興味をもたせる。2、学習課題を示す。(課題を設定する。)
3、課題解決への糸口や観点などを与える。4、調べる・まとめる・考える・分析する・
・・・5、交流する 6、発表・確認・評価]といった学習計画を立てる。

9. 本時の目標

10. 本時の展開

学習活動	指導・留意事項	評価・支援の手立て	言語活動の重点

--	--	--	--

※授業の流れは、[1、前時の復習 2、本時の目標 3、学習確認 4、課題解決に向かう
5、知識・理解・技能・解答などを全体で確認]。

[言語活動の重点]

(9) 「ことばの力」検証レポートの作成

教科における言語活動を充実させて、生徒の思考力・判断力・表現力を育成するために、また、個々の生徒の能力を教師間で共有し、成果・課題・手立てを今後の授業で生かすために、レポートにまとめて校内研修で交流した。

「ことばの力」検証レポート 【2年国語科】

《2学年詩「明日」の学習活動の流れ》

- 1、詩の題名「明日」から連想するものをウェビング法でノートに書く。
- 2、詩の全体から伝わるイメージをつかむ。

〈生徒の反応〉

- ◇ “明日”を感じさせる表現を探す。
約束・予言・願い・夢・未知の力 など
- ↓
- ◇ 詩から伝わるイメージをつかむ
期待・将来の夢・道が開ける・前向きな生き方など

- 3、詩の特徴をつかむ。

〈生徒の反応〉

- ・第一連から四連までの1・2行目は同じリズム。(反復法)
- 「ひとつの小さな・・・といい」
「明日を・・・」
- ・どの連にも“明日”という言葉が書かれている。
- ・第五連の“だが”で流れが変わった。
- ・第五・六連はまとめになっている。
- ・よく体言止めが使われている。
- ・“風のささやき”“明日はひそんでいる”といった表現(擬人法)

- 4、自分の気になる表現やよくわからない表現を押さえて、グループで解決に向かわせる。

- 5、グループで、2について自分で押さえた表現を出し合い、どう感じるか、また作者はどんなことを言いたいのか、意見を出し合う。(※詩の全体のイメージから外れてはいけない。)

〈生徒の反応〉

- ・明日が楽しみで待ちどおしい様子が浮かんでくる。
- ・小さな願いや夢もかなえようとする努力が大切。
- ・新しい経験や出来事に期待している。
- ・何か目標を持って生きることは、自分のためになる。

- 6、5でとらえた事柄が、作品から伝わるイメージ(2でとらえた)を支える役割を果たしているかを考える。(※詩を支える役割が大きい。)

《中間テストでの課題》

詩「明日」の特徴や表現をおさえて、そこから感じたことを書きなさい。(※詩のイメージを大切にすること)

《評価の基準》

- A：詩の特徴や表現をおさえて、詩のイメージとつながる解釈を自分の言葉で表現している。
- B：特徴や表現をおさえて、詩のイメージとつながる解釈をしているが、表現が弱い。
- B-：詩のイメージとつながる解釈を自分の言葉で表現できていない。(詩の言葉になっている。)
- C：“自分が感じたこと”の答えになっていない。

【評価Aの生徒解答】

- まばゆい朝という所が隠喩的だと思う。そう感じるのは、やりたことや目標があって明日が輝いて見えるので、まばゆい朝という表現にしているのだと思う。
- 「いつまでも一つの幻」の部分で小さな願いや夢も叶えるためには努力していかなければいけないという意味を表している。

【評価Bの生徒解答】

- 「夜の間に支度する心ときめき」から、明日が楽しみで待ち遠しい様子が浮かんでくる。

【評価B-の生徒解答】

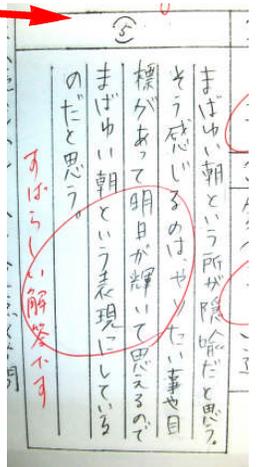
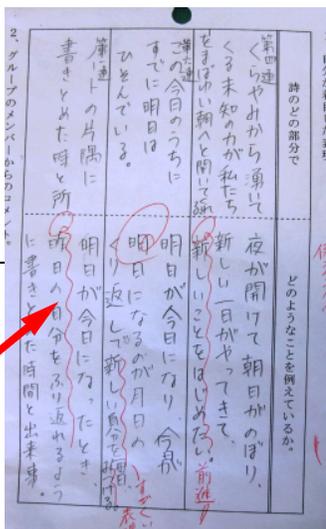
- 「くらやみから湧いてくる未知の力」が、まばゆい世界に広げてくれる。

【評価Cの生徒解答】

- 第五連以外は、“明日”に関することが書いてある。
- 風はささやくことはできないのに、“風はささやく”と隠喩的な表現をして興味を引いている。

《成果と課題》

- ◆学習活動5のグループ学習の場面では、2でイメージをおさえたことと、3で詩の特徴や表現をおさえたことの二つの内容をつながりながら意見の交流ができていた。既習事項を生かして思考を深めることができたように思う。
- ◆出された課題について、自分の考えが持てなかった生徒に対しては、グループで出した意見を使って、もう一度、課題に対する答えを文章で書かせる必要があった。



授 業 観 察 シ ー ト

月 日 ()限 年 組

() 先生 参観者 ()

段階	項 目	内 容	チェック
学習環境	規律	「規律ある態度」は意識されているか。	
授業全体	目標と評価	本時の目標と評価の設定は適切で、達成されたか。	
	意欲	意欲的に最後まで課題に取り組ませることができたか。	
	進め方	導入・展開・終末等進め方や時間の割り振りは適切か。	
導入	見通し	授業の見通しをもたせながら進めているか。	
	課題の提示	学習課題の提示は適切にされているか。	
展開	学習形態	学習形態は効果的か(個人・ペア・グループ・全体)	
	発問・説明	発問や説明の内容・タイミングは効果的か。	
	思考時間	考える時間は適切に確保されているか。	
	思考整理	考えを自分の言葉でまとめさせているか。(答え・根拠・理由)	
	伝え合う	考えの伝え合いを適切に行わせているか。	
	支援	評価規準に基づいた評価方法や支援の手立ては適切か。	
終末	振り返り	目標・学習内容を振り返らせたか(理解できたか)	
指導案貼付用メモ	評価できる点		改善を要する点

授 業 観 察 シ ー ト

月 日 ()限 年 組 教科()

()先生 参観者 ()

段階	項 目	内 容	チェック
導入	見通し	授業の見通しをもたせながら進めているか。	
	課題の提示	学習課題の提示は適切にされているか。	
展開	発問・指示	発問や指示のタイミングは効果的か。	
	グループ学習	1, 「何を」「何のために」グループ学習するのか意識させたか。	
		2, 考えを広めたり、深めたりする発問・指示であったか。(具体的に)	
		3, 役割分担はできていたか。	
		4, グループに対する支援は効果的であったか。	
		5, 学び合いや話し合いは深められたか。	
		6, 時間は確保されたか。	
		7, 課題解決に向かったか。	
	思考整理	理解したことや考えたことを表現できたか。(伝える・ノート・ワークシートなどに書く)	
伝え合う	グループの考えの伝え合いを適切に行わせているか。(発表・報告など)		
評価	評価規準に基づいた評価方法や支援の手立ては適切か。		
終末	振り返り	目標・学習内容を振り返らせたか(理解できたか)	
指導案貼付用メモ	評価できる点		改善を要する点